

令和元年11月13日
(2019年)

保護者の皆様へ

吹田市立山田第五小学校
校長 佐々木 康雄

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査分析

●国語<概要>

学習指導要領の4領域において、全国値をやや下回っている。

●国語<各領域における成果と課題>

話すこと・聞くこと

- ・正答率は全国値をやや下回っている。
- ・目的に応じて、質問を工夫することが苦手である。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることが苦手である。

書くこと

- ・正答率は全国値をやや下回っている。
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることが苦手である。
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができる。

読むこと

- ・正答率は全国値を下回っている。
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことが苦手である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・正答率は全国値をやや下回っている。

- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることが苦手である。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。

●国語科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①情報を分かりやすく伝えるための記述について理解すること。
- ②目的に応じて、質問を工夫すること。
- ③ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること。

◇指導改善のポイント

- ※書く活動では、必要な情報が入っているか、読みやすい文章になっているかを読み直して、確かめる習慣をつけられるようにする。
- ※自分の考えがうまく伝わるように、表現方法をたくさん知り、活用する技能を身に付けられるようにする。

●算数<概要>

学習指導要領の4領域において、全国値をやや上回っている。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・記述は全国値を上回っており、減法・除法の計算の仕方は全国値をやや下回っている。
- ・減法に関して成り立つ性質を基にした式を立てることに課題がある。
- ・条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表すことに、課題がある。

量と測定

- ・全国値を上回っている。
- ・伴って変わる2つの数量をとらえることに課題がある。
- ・単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。
- ・問題文を正しく読み取ることに課題がある。

図形

- ・全国値をやや上回っている。
- ・複合された図形の面積の求め方について説明が記述できる。

数量関係

- ・全国値をやや上回っている。
- ・一人当たり量の理由を記述できる。
- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し記述することに課題がある。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①数の仕組みを理解して、分配法則や結合法則などを用いること。
- ②資料の情報を分類・整理して課題解決に活用すること。

◇指導の改善ポイント

- ※算数的活動を通して、数理的な処理の良さに気付いていけるようにする。
- ※課題を解決するために必要な資料を分類整理し、表現したり読み取ったりできるようにする。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」は、全国値をかなり上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っている」児童は、全国値より下回っている。
- ・「毎日決まった時刻に就寝・起床している」児童の割合は、全国値をやや下回っている。
- ・「家で計画を立てて勉強する」児童は、全国値とほぼ同じで3割以上いる。
- ・「学校の授業時間以外で30分以上読書をしている」児童が全国より少なく、また「全くしない」と答えた児童も14%いる。
- ・「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」児童は、全国値をやや上回っているが、「まったく話をしない」と答えた児童も8パーセントいる。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持っている」児童は、全国値とほぼ同じである。
- ・「海外の人と友達になったり海外のことについてもっと知りたい」と思っている児童は、全国平均をやや下回っている。

【教科・学習について】

- ・「算数の授業が好きだ」と思っている児童は、全国値を下回っているが、「大切だ」と思っている児童は全国値を上回っている。
- ・「算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考える」児童は、全国値をやや下回っている。
- ・「学級の友達と話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」児童は、全国値を下回っている。

3. 今後の取り組み

本校では、「自ら考え 主体的に活動する 優しくたくましい子を育てる」を教育目標とし、「よく考える子、助け合う子、元気な子」をテーマに掲げ、日々教育活動に取り組んで参りました。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、「山五漢字検定」に取り組んでいます。また「読書大好き児童」を育てるため、学校図書や学級文庫を充実させると共に、「朝の読書」「読み語り」等の時間を設けるといった工夫により、前年度、全児童による学校図書貸出冊数が、10,000冊を超えました。

算数科においては、一人ひとりを細かく見ていくための少人数指導や、計算力の定着を図るためのダイヤモンド大作戦（始業時小テスト）を引き続き実施するとともに、「思考力」を育てるための授業の工夫を行っています。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう、チャイムが鳴り終わるまでに席に着く、移動時は椅子や机を整頓する、下敷きをしいてノートに字を書く、長くとがったえんぴつを使うといった学習規律を身につける指導にも力を入れて取り組んでいます。

今回の学力調査では解き方の記述ができた項目もありますが、十分に学習内容が理解できていない部分もあることが分かりました。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」ことができるよう、工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業作りを進めて参ります。

生活習慣に関する結果からは、規則正しい生活を心掛ける必要があることが分かります。また、コンピューター、スマートフォンを使ったゲームで引き起こされる悪い影響もしばしば見かけられ、犯罪やトラブルに巻き込まれないためにも、使用方法や時間を決めるなどのルール作りをしていくことが大切です。学校全体でも夜遅くまでゲームをやり続けて朝が起きられないことで不調を訴える児童の増加や、コンピューターやスマホに依存する児童の増加がみられるため、今年度は全学年に「携帯電話安全教室」を開きました。引き続きご家庭でも時間を決める、約束ルールを守るなど、話し合いをしていただき自律心を育てていけるようよろしくお願いいたします。

学習環境に関する結果からは、一人ひとりが更に成長していくためにも、「将来の夢や目標」をもつことが大切でしょう。また、新聞やニュースにふれたり、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持ったりできるよう、子どもの心身の成長につながると考えています。

教科・学習に関する結果からは、国語・算数の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童が多いことが分かりました。その気持ちを大切に、一人ひとりの児童に応じた学力の向上を目指し、ご家庭と十分連携をとりながら、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。

今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。